

4 登別市の歩み

1. 昔の道具とくらし



郷土資料館

登別市内にある郷土資料館には、いろいろな大きさや形の道具があります。館長さんに館内を案内してもらいました。

1階には、昔の生活道具やおよそ4万4千年前の炭化したトドマツや、アイヌの人たちの生活道具などが展示されています。

2階には登別を開拓した片倉家に伝わった道具や、家来たちの家に残された古い文書などが展示されています。

「昔の道具はどうやって使われていたのだろう。」みんなで昔の道具について絵カードにまとめることにしました。

まちに残っている古い道具を調べよう



絵カード

【道具の名前】

【使われていた時代】

ひいおじいさん、ひいおばあさんが生まれ育ったころ

【思ったこと】

○かまでどうやってごはんをたいたのだろう。

○どうして底が黒くて丸いのだろう。

○ごはんの味はおいしかったのかな。



郷土資料館 1階 暮らしのコーナー

これらの道具はどのように使うのかな？



道具のうつり変わりを絵年表にまとめよう

みんなで絵カードを古い順にならべて、道具のうつり変わりの絵年表をつくりました。

絵年表には、仕事の様子のうつり変わりや、社会の様子についても、調べて書き入れることにしました。

ひいおじいさん、ひいおばあさんが生まれ育ったころ
(およそ80～100年くらい前)

おじいさん、おばあさんが生まれ育ったころ
(およそ50～70年くらい前)

絵年表のつくり方

- ①年表を四つの時期に分ける。
- ②調べたことを、左から右へ、古い順にならべる。
- ③道具のうつり変わりのほかに、仕事の様子や、そのころの社会の様子なども書きこむ。
- ④絵カードや写真などをはって、年表をまとめる。

お父さん、お母さんが生まれ育ったころ
(およそ30～40年前)

わたしたちが生まれ育ったころ
(およそ10年くらい前から今)



手回し式電話 レコードプレーヤー



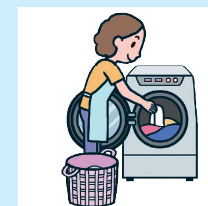
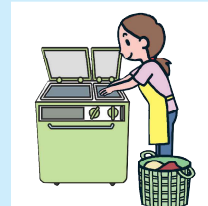
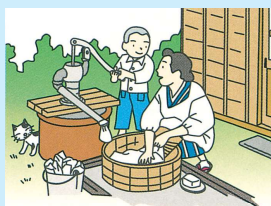
ダイヤル式電話 ラジカセ



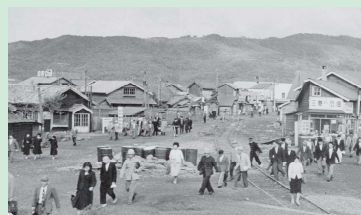
押しボタン式電話 CDラジカセ



スマートフォン デジタルオーディオプレーヤー



昭和初期、紅葉谷を走る電車



昭和35年、朝の幌別駅前



昭和50年ごろの道道782号線
右おくには、総合体育館が見えます。



平成16年にオープンした市民プール「らくあ」

2. 登別市のうつり変わり

変化してきた登別市の様子や、これからの課題を調べよう

わたしたちが住む登別市は、縄文文化からアイヌ文化へ、そして明治時代の開拓につながって、まちの姿は大きく変わってきました。

昭和45年（1970年）には、北海道で30番目の市として登別町から「登別市」になり、市内では、はなやかに祝いのパレードが行われました。また、令和2年（2020年）には、市制施行50周年を迎え、記念行事が行われます。

登別といえば、「温泉のまち」として知られており、登別温泉やカルルス温泉には、登別原始林や温泉の湧き出る地獄谷や大湯沼、美しい橋など豊かな自然があります。また、深さ120m以上の谷にかかる新登別大橋からの景色、クマ牧場や水族館などのテーマパークもあり、道内だけでなく本州や外国からの観光客でにぎわっています。

若草町や新生町などは、室蘭市へ仕事に通える近さにあるので、早くから家が建てられました。その後、水田のあった富岸町にもたくさんの家が建ち、道路や公園などが整備され、お店が次々にできました。

若山町には、若山浄化センターができ、市内のトイレはほとんどが水洗化されました。また、子どもからお年寄りまで、健康で安心して過ごすことができる施設なども必要になり、川上公園や岡志別の森運動公園が整備され、グラウンドや野球場、遊具などができました。



昭和45年、登別市となったときのお祝いパレード



昭和60年ごろ、水田が作られていた富岸町。おくの建物は富岸小学校

また、片倉町にある総合福祉センター（しんた21）は、市民の健康はもちろん、お年寄りや体の不自由な人たちが、安心してすごすことができる場として利用されています。

その他にも、まちづくりなどの市民団体をサポートする市民活動センター（のぼりん）や、縄文文化などの遺跡が学べるのぼりべつ文化交流館（カント・レラ）などができました。

市役所では、市民の税金を使って、こうした公共施設などを整備し、市民が安心して生活しやすいように取り組んでいます。豊かなくらしを送るためのまちづくりについて、わたしたちも考えてみましょう。

「しんた21」の名前の由来

「シクタ」という言葉はアイヌ語で「神が天空を飛行するときの乗り物」と伝えられています。（日常語では「ゆりかご」という意味があります。）

年	世帯数	人口
1990（平成2）	19,629	56,584
1991（平成3）	19,952	56,593
1992（平成4）	20,381	57,003
1993（平成5）	20,615	56,916
1994（平成6）	20,981	57,117
1995（平成7）	22,624	57,367
1996（平成8）	22,878	57,220
1997（平成9）	22,993	56,717
1998（平成10）	28,183	56,243
1999（平成11）	23,405	55,928
2000（平成12）	23,682	55,688
2001（平成13）	23,883	55,207
2002（平成14）	24,249	54,993
2003（平成15）	24,517	54,800
2004（平成16）	24,647	54,622
2005（平成17）	24,593	53,971
2006（平成18）	24,736	53,782
2007（平成19）	24,881	53,472
2008（平成20）	24,889	52,926
2009（平成21）	24,970	52,664
2010（平成22）	24,963	52,279
2011（平成23）	25,031	51,872
2012（平成24）	25,114	51,580
2013（平成25）	24,950	50,944
2014（平成26）	25,051	50,657
2015（平成27）	25,065	50,182
2016（平成28）	24,972	49,526
2017（平成29）	24,937	49,003
2018（平成30）	24,932	48,459

登別市の世帯数と人口のうつりかわり
※人口の減少が続いています。



平成2年に運転開始した若山浄化センター



平成6年に完成した総合福祉センター（しんた21）